



アイスアリーナの存続を
求める提言書を手渡す田
中哲委員長
＝27日、南部町

検討委リンク存続提言

南部町に最終判断委ねる

南部町のふくちアイスアリーナが機器の故障で休業している問題で、施設の存廃を含めた在り方を検討する委員会は27日、工藤祐直町長に対して、施設を改修しアイスアリーナとして存続することを求める提言書を出した。

工藤町長は「非常に大きな金額を要する話。町議会と時間をかけて議論しながら最終判断したい」と述べた。

提言書では、①冷媒冷凍機を改修しアイスアリーナとして活用した上で、スケート以外にも利用される施設改修を検討する②施設改修では脱炭素社会の実現に向けた取り組みを意識し、徹底した省エネを推進して施設運営コストの低減につなげる③アリーナとしての

運営期間や、冬期間以外の活用はニーズを考慮して検討する―を盛り込み、存続を求めた。

一方、4項目として「町財政への負担が著しく厳しいと判断される場合は、アイスアリーナ以外の用途への利活用を検討する」と記述し、町の最終判断の余地を確保した。

検討委は昨年12月から計4回の会議を開き、議論を重ねてきた。

町役場で提言書を出した検討委の田中哲委員長は「『意義ある施設』として存続を求める声がかなり多かった。町内の利用者が2割程度だという点は、その分だけ町の関係人口を増やしていると判断された」と述べた。

夏堀文孝副委員長は「バ

ーデパーク全体で考えてもアイスアリーナがなくなる影響は大きい。町財政への負担を心配する声が多かつたが、起債や補助事業を活用してほしいという結論になった」と語った。

(熊谷勝之)